

# 中国語と日本語の女性ことばのポライトネス —語気詞と終助詞に注目して—

閔 曉娣

## I 研究背景

現在の社会で人と人との繋がりにはコミュニケーションによって固められる。人間の交流能力は現代社会人にとって非常に重要である。古い時代から儒家文化の影響を受けたため、中国はいつも「和」という文化を高く評価していた。「現代漢語大辞典」(2010)によると「和」という漢字は和やかで調和がとれている、また、争い事がおさまるという意味を持っている。「和」文化を推進した昔の中国人は、行為だけではなく言葉遣いにも十分注意してきたのではないかと思う。現代に入ると、アメリカによる西洋文化が中国に浸透してきたので中国人は日常生活が少しずつ開放されてきて、言葉遣いもアメリカ人のような直接的な話し方に近くなった。一方、中国の隣国である日本は昔からずっと中華文化を受け入れ、今までも儒家の思想が流行っている。其中で、代表的なものとして、「察する文化」を挙げなければならない。そして、日本人が使う日本語は言うまでもなく「察する文化」を表すべきものだと思う。

ブラウン&レビンソン(以下 B&R) (1987) が日本人のこの「察する文化」をポライトネス(politeness)と総括し、発話者の配慮度によって五つのポライトネス・ストラテジー(politeness strategy)を分けていた。

本研究では、B & R のポライトネスの観点から、日常会話の中で重要な位置づけがある終助詞を対象に、適当なポライトネス・ストラテジーに応じて男女差を検討する。そして、日本語終助詞と同じような働きがある中国語語気詞の場合には、B & R のポライトネス理論に相応しいポライトネス・ストラテジーがあるかどうか、ジェンダーの観点から日本語と同じような男女差を持つか検討する。

## II 研究目的

本研究は、ポライトネスとジェンダーの観点から、日常会話における日本語と中国語の終助詞と語気詞、すなわち、日本語終助詞「ね」「よ」と中国語「吗」「呢」「吧」を取り上げて、その語用論的差異について分析する。

B & R (1987) のポライトネス理論では人間は、他者に認められたい、賞賛されたいという欲求である「ポジティブ・フェイス(positive face)」と、自分の行動を他者に侵害されたくないという欲求である「ネガティブ・フェイス(negative face)」を持っている。そして、この二つのフェイスを脅かさないように配慮することがポライトネスである。一方、この二つのフェイスを脅かす行為或いはポライトネスを作用しない行為は FTA (Face Threatening Act) である。話し手は FTA の度合いを見積もり、相手のフェイスを脅かさないように最も適当な発話をするのがポライトネス・ストラテジーである。FTA をする際のストラテジー選択には、「社会的距離(distance)」「力関係(power)」「ある行為が相手にかかる負荷度(rank of imposition)」の 3 要因が影響すると指摘している。FTA を行使するとき、場合によって、直言、ポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・ポライトネス、ほのめかし、行為回避の五つのポライトネス・ストラテジーに分けられる。日本人は曖昧な話し方を用い、即ちネガティブ・ポライトネスとほのめかしの話し方を使い、あるときはポジティブ・ポライトネスの話し方を使用する。しかし、中国人だと、直言やポジティブ・ポライトネスを好む傾向がある。そのうち、話者が空気を読むために日本語終助詞や中国語語気詞を適当に選択して、相手のメンツを脅かさないように自分の感情を表すことが十分重要である。

本研究は、「社会的距離」「力関係」「ある行為が相手にかかる負荷度」の 3 要因を考慮しながら男女によって日本語終助詞と中国語語気詞の対照研究を行う。本研究を通して、両者の共通点と相違点を明らかにすることにより其の特徴を把握することは、日本語学習者の日本語に対する理解

を高め、円滑な異文化間コミュニケーションに貢献することができるのではないかと考えている。

## 第一章 ポライトネス

### 1.1 ポライトネスへの先行研究

彭(2004)はポライトネス理論について以下のように指摘した。日本の言語学、とりわけ社会言語学の研究分野においては、ここ十数年、新しい語用論の概念としての「ポライトネス」(politeness)が紹介され、その研究が進められる動向が見られる。英語の「politeness」の概念は欧米の言語と文化を背景にして生まれたものであり、この概念の紹介された初期に「丁寧さ」と翻訳されることが多かった。「ポライトネス」の定義に関しては、欧米の代表的な研究者たちにも異なる所が多いことから、研究者の間でも扱いにくいものとされてきた。レイコフ・R、リーチ、ブラウン&レビンソンの三説が代表的なものであり、取り上げてみても「丁寧さ」の意味に近い説もあれば、「相手に対する心遣いを反映した言葉遣いの工夫、ことばの運用の際の態度」の意味に近い説もある。また「待遇表現」のように罵倒語も研究対象の範囲だという説もある。定義が異なることもあって、研究者の間でも様々な誤解や混乱を引き起こした。しかしながら、本研究は最もブラウン&レビンソンの説に従って論述を展開することにする。

B&Rのポライトネス理論の中に、フェイスという概念がある。この理論によると二つのフェイスがある。人には、他者に認められたい、よく思われたいというプラス方向への欲求である「ポジティブ・フェイス(positive face)」と、自分の行動を他者に侵害されたくない、踏み込まれたくないというマイナス方向に関わる欲求である「ネガティブ・フェイス(negative face)」がある。「ネガティブ」が「否定的な」という意味ではないことは言うまでもない。

B&Rは、この基本的欲求としての二つのフェイスを脅かさないように配慮することが、ポライトネスであると捉える。したがって、うへの二つのフェイスを脅かす行為、またポライトネスを作用しない行為がFTA(Face Threatening Act)である。FTAが日本語を訳すとフェイスを脅かす行為という意味である。

B&Rポライトネス理論では、発話者はFTAの度合いを見積もり、最も適切と思われる方策を選択し、相手のフェイスを脅かす危険を小さくすることがポライトネス・ストラテジーである。そして、そのポライトネス・ストラテジーが配慮度によって、「直言」、「ポジティブ・ポライトネス」、「ネガティブ・ポライトネス」、「ほのめかし」、「行為回避」の五つに分けることができる。(図1)

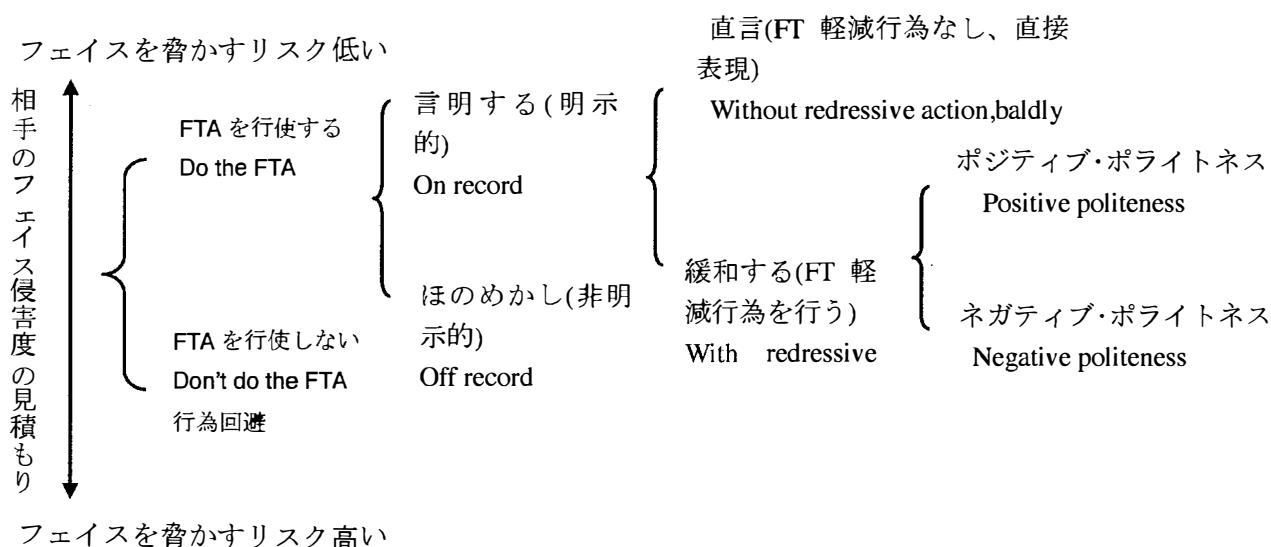


図1 ポライトネス・ストラテジー (B&R, 1987)

## 1.2 日本語のポライトネスについて

宇佐美(2001)は以上の五つのポライトネス・ストラテジーについて、以下のように指摘した。①直言すなわちFTAの軽減行為を行わず、直接的な言語行動をとることとは、緊急の場合等、簡潔に物事を述べた方が良い場合に適用される。「お気をつけくださいますようお願い申し上げます。」より、「気をつけて!」の方が適切な場合があるだろう。②ポジティブ・ポライトネスとは、先にあげた、相手の他者から認められたいというポジティブ・フェイスを満たしてあげるように、相手の何かを誉めたり、共通の興味を強調したり、相手を楽しくさせるような冗談を言ったりすることである。③のネガティブ・ポライトネスは、他者に邪魔されたくないという相手のネガティブ・フェイスを保つために、何かを依頼するなど、どうしても相手のフェイスを脅かす行為を行わなくてはならないときに、その度合いを少しでも軽減するように、押し付けがましくない、相手にことわる余地を与えるような、間接的な表現をするということである。「傘を貸してください。」より、「もし、よろしかったら、傘を貸していただけませんか?」のほうが、よりポライトなのは、この理由による。④のほのめかし、或いは、「伝達意図を明示的に表さない」とは、傘を借りたい場合に、依頼をはっきり言語で表現しないで、「今日、傘を持ってくるのを忘れてしまったんです…」のように、ほのめかすにとどめる場合である。この発話は、はっきり傘を貸してくれるように依頼しているわけではなく、この発話をどう解釈するかは、聞き手にかかっている。その意味で、聞き手のネガティブ・フェイスを脅かすことを最小限にとどめていると言える。⑤は、行為回避、すなわち、FTAを行わないは、相手のフェイスを脅かすような行為をしない。つまり、傘を借りたいという意を表明しないし、ほのめかしもしないということである。B&Rは、この枠組みで、ほとんどの文化・言語におけるポライトな言語表現が説明できると主張している。

一方、日本語社会は「察する」文化が流行る社会である。それに応じて、日本語は「察する」言語であろう。即ち、相手に迷惑をかけないように、よく受け入れるように観察しながら、談話を行うことである。B&Rのポライトネス理論によると、日本語では上の節に述べた五つのポライトネス・ストラテジーが十分に表現されている。次に、具体例を挙げて、説明する。

例、上の階の住民が深夜パーティでうるさい時

1:何時だと思ってるんだ!うるさい、静かにしろ!

2:にぎやかですね、うらやましいなあ!でも、明日僕、早いからさ、少し静かにしてもらえる?

3:夜分恐れ入ります。下の住民ですが、老人が眠れないでいます。申し訳ありませんが、少し静かにしていただけませんか?

4:お楽しみですね!(皮肉)

5:黙って耐える

1番目は直接自分の要求が相手に伝わるので、直言のポライトネス・ストラテジーを明らかにする。2番目はまず相手によりイメージを与え、それから自分の欲求を伝える。これはポジティブ・ポライトネスである。3番目はまた相手に自分の欲求が易しく受け入れられるために、できるだけ非常に丁寧な言い方を用いる。相手に距離感を感じさせる。これはネガティブ・ポライトネスである。4番目は皮肉な話し方をして、何も明示されない。このような曖昧な言い方はほのめかしというポライトネス・ストラテジーである。5番目は行為回避というポライトネス・ストラテジーである。この場合では、欲求を持つけれども相手にきちんと話すことができない。これは、側面から見れば、発話者が自信を持たないのではないかと思う。

## 1.3 中国語のポライトネスについて

現代中国語には二つの状況がある。一つ目は、アメリカなど、西洋文化が浸透する事によって、中国人は日常会話をする時は、アメリカ人のような直接的な話し方を用いる。二つ目は、現代中国語では昔からの敬語などが大体捨てられている。

しかしながら、現代中国語の細かいところにポライトネスを表す表現がある。中国人はいつも自分の要求を相手に直接的に伝えることが多い。よいことか悪いことかはっきり判断できないけれど

も、これは直言のポライトネス・ストラテジーであることが明らかである。そして、現代中国人が日常生活の中で、特に職場では周りにうまく受け入れられたいために、発話する時ポジティブ・ポライトネスを好む傾向がある。会社では一般に、ビジネス場面のフォーマルな談話であっても、説得などの実用的機能だけではなく、人間関係構築・維持などの交流的機能も重要とされる。説得機能を前面に押し出すよりも、むしろ、交流機能を先行させておいて、もっぱら接触・融和を図り、対人関係の距離が近づいた段階で、説得機能を持ち出して行くほうが、交渉事の目的は達成されやすいとされる。

仕事を進めるための談話には、談話参加者のそれぞれに目指す目的がある。また、談話をそれぞれの目的に応じて方向付けしようとする談話のストラテジーがみられる。例えば、

A<sub>1</sub>: 这份资料整理的不错。不过,下次如果能把去年的数据也做一下参考效果会更好,对不对?(この資料はよく整理できましたよね。でも、もし今度去年のデータもある程度参照してみれば、もっと完璧ではないでしょうか。)

B: 这样啊! 嗯--, 好的。我会再做修改的。谢谢您的建议。(そうなんですか。うん、はい。分かりました。また直します。ご意見、ありがとうございます。)

A<sub>2</sub>: 你做的很好, 继续努力。(よくできましたよ。頑張っってね!)

B: 好的, 谢谢您!(はい、ありがとうございました。)

A<sub>1</sub>において、意見をよりよく受け入れられるために、まず今まで出てきた成果を誉める。それから自分の意見と要求を提出する。ここでは、注意すべきことは、意見や要求を提出する際には、強制や命令的な話し方を用いないことである。相手を誉めることはポジティブ・ポライトネスの交流機能を表しているであろう。優しく態度で自分の要求を提出することは交流機能と説得機能両方を含めているであろう。

さらに、A<sub>2</sub>の話を見ると、目的を達成した後会話を終わるとき、相手を誉めて、元気付けることもポジティブ・ポライトネスの交流機能を指摘することができるであろう。

## 第二章 ジェンダー

### 2.1 ジェンダーに関する先行研究

陳(2013)によると、ジェンダーとは生物学的な性別ではなく、社会的な性別の事を指すということが指摘された。ジェンダーと言語の研究が盛んになってきたのは、70年代の第3波の女性解放運動がきっかけであった。女性の言葉遣いの特徴から男女社会の地位の不平等を指摘するロビン・レイコフの著書 *Language and Woman's Place*(1975)(日本語訳 2001『言語と性』)を始めとする数多くの研究が様々な角度から言語とジェンダーの関係を解明しようとした。本研究は、言語使用とジェンダーの分野で女と男というジェンダーによってことばの使い方がどのように変わるかを問うものである。世界の中には、数多くの言語で言葉の男女差がある。男女の言語表現差は、彼らの社会地位と社会において演じる役割などに関わっている。日本語について客観的にみれば、以下の原因がある。

- (1) 男女の社会地位の違い
- (2) 男女の家庭教育の違い
- (3) 社会の役割の違い

以上の原因により男女の言葉遣いの表現が違うようになったのであろう。

### 2.2 日本語のことばの男女差

日本語では、男女差が大きく見られる。話し言葉では、男性が主に使う表現と女性が主に使う表現があり、かなり体系的な区別がなされる。ただし、この区別は、言語表現上のものであって、男性的表現を男性が、女性的表現を女性が使うという絶対的なものではない。男性が女性や子供に話す場合は多少女性的な表現を使うこともあるし、女性同士が話したり、女性が目下のものに動作を要求するような場合、男性的な言葉遣いをすることもある。また、個人差も大きい。

本研究では、日本語に由来ある「女性語」・「男性語」・「女ことば」・「男ことば」「女性専用」・「男性専用」「女性形式」・「男性形式」等の概念を統一して「女性的表現」・「男性的表現」と呼び、両方合わせて「ジェンダー表現」と定義する。

ジェンダー表現の特徴については、一般に、「女性的表現」・「男性的表現」がそれぞれ「女性らしさ」・「男性らしさ」と結びついていると指摘するものが多い。たとえば、佐竹(2003)は、女性語は「やさしい、おとなしい、かわいい、あるいは、上品な女」などの望ましい「女らしさ」についての知識や規範であると指摘している。中村(2007)によると、「女ことば」の特徴として「丁寧・やわらかい・間接的」等が挙げられ、それらは「女らしさ」と一致しているのに対して、「男ことば」の特徴は「はっきり・断定的・直接的」等が挙げられ、「男らしさ」と一致している。

日本語は男女差が大きく見られる言語である。言葉の男女差は以下の方面から見る。

#### (1) 語彙について

##### ① 人称代名詞

男性が「ぼく」、「おれ」、「きみ」などを使う。女性が「あたし」、「あたくし」、「あたい」などを使う。「わたし」、「わたくし」、「あなた」、「あんた」などは中性代名詞だが、実際は男性より女性のほうがよく使う。

##### ② 感動詞

「おい」、「こら」、「あれ」、「おう」のように、強圧的に相手の注意を促す感動詞は、男性的表現になる。これに対して、「あら」、「まあ」、「おや」のような、眼前の事態に対する驚きを表す感動詞は女性的表現になる。

「おい、おまえちょっと来い」(男性)

「あら、すばらしいこと」(女性)

③ 男性が漢字語をよく使うこと。それに対して、女性は男性よりあまり使わないこと。

##### ④ 終助詞

男性「さ」、「な」、「ぞ」、「ぜ」のような終助詞をよく使い、女性が「の」、「わ」、「のよ」、「のね」、「のよね」、「わよね」などよく使う。

「来た、来た。母さん、薫来たぞ」(男性)

「途中で夜になるわ」(女性)

##### ⑤ 接続詞

男性は一般の話し方を使う。それに反し、女性はよく「ですから」、「ですもの」、「でもね」のような鄭重な話し方を使う。そして、女性は「お」、「ご」と言うような接頭語をよく使う。

「だったら、行けよ」(男性)

「でもね、あたし孝治のこと、好きなの」(女性)

「お菓子、どうぞ」(女性)

⑥ 男性が乱暴な語彙を使う。一方で、女性はそれに対し、婉曲的、優雅な語彙を使う。

「これ、うまいぞ」(男性)

「これ、本当に美味しいわよ」(女性)

#### (2) 話し方について

男性は直接的、命令的というような特徴を持ち、一方、女性は断定的な言い方を避け、命令的な言い方もしない。

「君は学生だ」(男性)

「あなたは学生よ」(女性)

#### (3) 文法、表現手段について

① 命令形、明示的な禁止の形は男性的表現になる。相手に動作を求めたりする場合、女性的表現では、依頼の表現を使う。

「落とせ！放り出せ！早く！」(男性)

「いくらでも、私を罵倒してください」(女性)

②男性は女性より敬語を使う頻度が少ないし、また、表す敬意の程度も低い。

「いつ来たんですか」(男性)

「いついらっしやったの」(女性)

文章などの書き言葉だけではなく、談話レベルから分析して見れば男女差はより顕著に見られる。本研究は談話レベルの立場から日本語の男女差を分析する。

ここでは、終助詞を具体例として、説明する。

たとえば、「行くぞ!」と「行きましょうよ。」この二つの言い方からみると、女性的な表現は、断定を避け、命令的でなく、自分の考えを相手に押し付けない言い方をするという特徴を持つこと、そして、これに対して、男性的な表現は、断定や命令を含み、主張・説得をするための表現を多く持つことが分かる。

さらに、終助詞を利用する場合、推量をしたり、または、断定や限定を避けたり、明言や断言をせずにぼかすことで発話内容の力を和らげる(弱めたり、緩和する)表現ができる用語を同時に使うことが多い。このような談話表現を「ヘッジ表現」と定義する。つまり、文脈上、その表現がなくても発話内容の伝達に何の問題もなく、さらに断定的に言えるところを、その表現を使うことで発話内容の力を和らげる(弱めたり、緩和する)効果をもたらすと判断される表現である。ここでは、日本語における「ヘッジ」の認定において、発話機能とイントネーションなどの音声的な側面を考慮に入れ、同じ言語表現であってもヘッジとして捉えるものについて、「でしょう」の一般的な例を挙げ説明する。

A: この大学の規模そんなに大きくないので…。

B: あ、そうなんですか?

A: 1 学年 650 人ですから。

B: あー、じゃ、もう、そうですね、大学としては…。

A: 全部で、うん、3000 人ぐらいしかいませんから。

B: ふーん、ふーん、じゃあ、そうですね。

A: そうですね、単科大学ですし…。

B: ふーん、あ、そうなんですかー。

A: まったく、つくりがね…<笑い>。

B: <笑い>まあ、ほんと、病院だったら、いい環境でしょうね、きっと(うん)、緑も多いし、(うん、ねー)静かだし。

上記の発話文に見られる「でしょう」は、ヘッジとして捉える。発話の文脈から、話し手は、いろいろな環境から見て「病院だったら、いい環境である」と確信しているにも関わらず、「でしょう」と推量の表現を使うことで、発話の内容を和らげていると判断されるため、ヘッジとして機能していると捉える。ここでは、発話の内容を和らげる「でしょう」は後ろに「ね」を加えると、話し手は聞き手の同意を求め、相手との距離を短くするのである。

なお、日本語におけるヘッジ表現は、男性がよく使うヘッジの種類と女性がよく使う種類がある。男性は「とか」、「なんか」、「というか」、「だろう」、「じゃないか」、「たぶん/おそらく/確か」などを使う頻度が高い。それに対して、女性は「感じ」、「でしょう」、「的」、「風」、「系」などをよく使う。

### 2.3 中国語の男女差

中国の古代の重要な書物や文献など、早くから言語の性別差別に関する論述が記載される。例えば「男女有別、国之大節也」、これは「春秋左氏伝」から取ったものである。そして、後漢の「女誡」という書物も中国封建社会の男尊女卑、三従と四徳の規則を述べ、性別の身分意識を発展し、良くも悪くも中国の社会発展に深遠な影響を及ぼす。現代中国語は男性的表現や女性的表現等の考えより、むしろ中性的表現という考えの方がよいと思う。現代中国語は男女平等のために、男女差が顕著に見られることばは概ね捨てられた。しかしながら、日常言語活動の中で、男性と女性の言

葉遣いの習慣に違いが存在することを示している。

#### (1) 語彙について

語彙から見れば、男性はよく硬くて強い感じの語彙を使う。特に、口喧嘩をする時、乱暴な語彙を用いる。一方、女性はどのような場合に置いても、できるだけ優しいイメージを与えるために、それに相応しい行為やことばを用いなければならないのである。口喧嘩をする時にも、乱暴な程度に至らないのであろう。

#### ① 人称代名詞

中国語の人称代名詞は一般に使う「我」「你」「他・她」のほか、現在では、女性は自分のことを指す「人家」、男性は自分のことを指す「爷」などの代名詞もよく用いる。

#### ② 感動詞

感嘆詞においては、一般に女性が感嘆詞を使う頻度は男性より高い。「唉」、「啊」、「哈」、「哦」などは話し手の感情が大きく表れるので、女性は注目させるために、このような感嘆詞を使用する。

#### ③ 語気詞

語気詞においては、女性は相手に親しくしたい場合や、相手に自分の意見を押し付けないようにする場合、語気詞「吗」、「呢」、「吧」などを使用することが多い。男性は断定や命令的な話し方をよくするので、語気詞を使う場合が少ない。

#### (2) 話し方について

話し方から見れば、男性はよく命令や断定などのような強い話し方をする。一方、女性は相手との距離を短くするために、一般に優しく、丁寧な言い方をする。

#### (3) 文法について

文法上から見れば、男性はよく断片文を使い、疑問や陳述の表現を用いる。できるだけ意思を相手に完全に伝える簡潔な言い方をする。それに対して、女性はいつも完全に話をしたり、疑問や反問の表現を用いたりする。柔らかに相手を易しく受け入れるような話し方をする。

ここでは、中国語語気詞について具体例を挙げながら説明する。たとえば、中国語語気詞においては、女性は男性より会話の中で感情を緩和する語気詞を使用する頻度が高い。誘う場合に語気詞「吧」を用いると、相手に親しくしたいという信号が伝わる。例えば、

「一起去！」(一緒に行こう)

「一起去吧。」(一緒に行きましょうよ)

また、質問する時も語気詞「呢」を使うとことばの強さが緩和する。

「他去哪儿了？」(彼はどこへ行った?)

「他去哪儿了呢？」(彼はどこへ行きましたか?)

## 第四章 アンケート調査結果への検討

① アンケート調査テーマ: 中国語と日本語の女性ことばのポライトネス研究調査—語気詞と終助詞に注目する

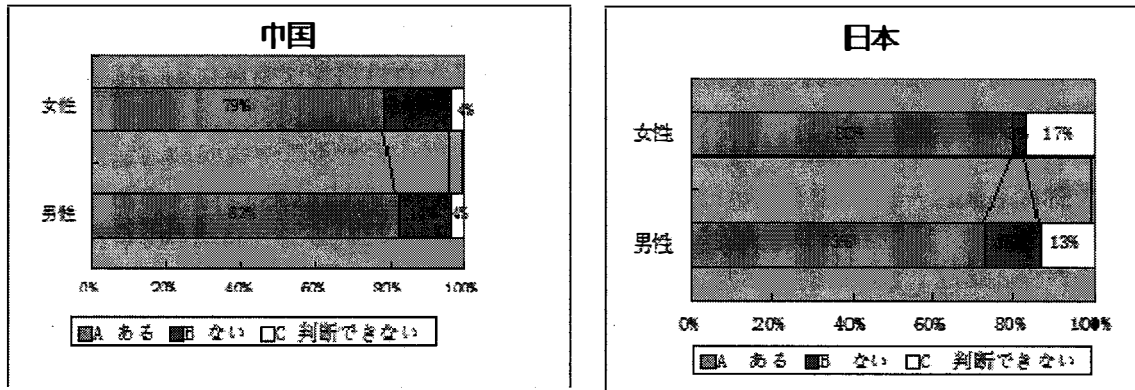
② 調査の目的: 日本語の終助詞は、男性的な終助詞は乱暴さ、女性的な終助詞はやさしさという特徴がある。しかしながら、現代中国語語気詞には男女によってこのような特徴があるかどうかまだ明らかにされていない。中国語語気詞と日本語終助詞をポライトネスとジェンダーの観点から比較したうえで、女性ことばの日中対照を明らかにする。

③ 調査の対象: 日本人大学生(男性 30 人・女性 30 人)と中国人大学生(男性 28 人・女性 28 人)。

④ 調査の内容: 本調査は、中国語と日本語の男女差への調査・中国語と日本語のポライトネス段階への調査・中国語語気詞と日本語終助詞についての調査及び両者とヘッジ表現との関係調査の三つの部分と分ける。

#### 4. 1 全体的な言語意識調査

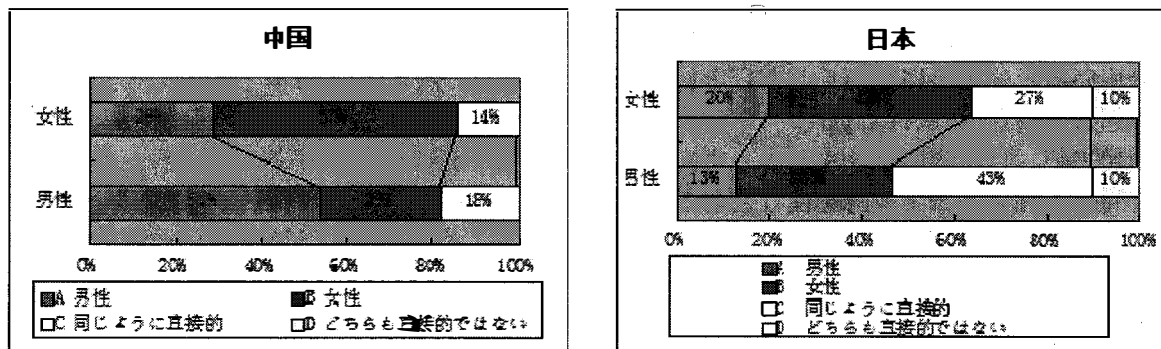
質問1 中国人(日本人)大学生の日常会話における中国語(日本語)についての男女差意識



質問1は中国人(日本人)の大学生が日常会話の中で中国語(日本語)についての男女差意識を持っているかを確認することを目的としている。アンケートの結果を見ると、中国人の男性82%、女性約79%の人が「ある」と答えた。また、日本人向けのアンケート結果からみると、日本人の女性80%、男性73%の人が「ある」と答えた。ただし、中国語は男性・女性の専用語というような言語システムはないが、言語使用傾向に男女差があるということを明らかに示している。日本人大学生の答えによると、日本語は男女差があるということがはっきり示されている。

大学生の言語意識をもっと詳しく分析するために、場面と感情の違いにより、どのような言葉遣いを使用するかを条件に設定した。

質問2 感謝の気持ちを表す際の、女性と男性の言葉遣いの配慮の程度



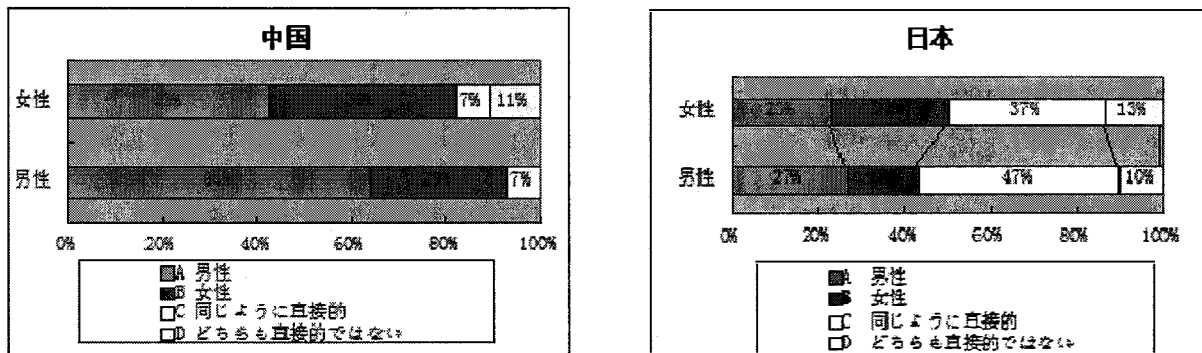
まず、感謝の気持ちを表す際の、女性と男性の言葉使いの配慮の程度を確認したい。

中国人向けのアンケート結果から見ると、中国人の女性の29%は「男性がより直接的」、57%は「女性がより直接的」と答えた。一方、男性の54%は「男性がより直接的」、29%は「女性が直接的」という答えだった。つまり、感謝の気持ちを表すとき、女性も男性も、それぞれ自分たちが「より直接的な言葉を使う」という回答が得られた。

日本人向けアンケートの調査結果から見ると、日本人の女性の20%は「男性がより直接的」、43%は「女性がより直接的」、27%は「同じように直接的」と答えた。一方、男性の13%は「男性がより直接的」、33%は「女性が直接的」、43%は「同じように直接的」という答えだった。つまり、感謝の気持ちを表すとき、「同じように直接的」という回答は男性より女性の人数が少ない。また、日本人男性の方が、感謝の言語行動に性差はないと考えているのであろう。



質問3 お詫びをする際の、女性と男性の言葉遣いの配慮の程度



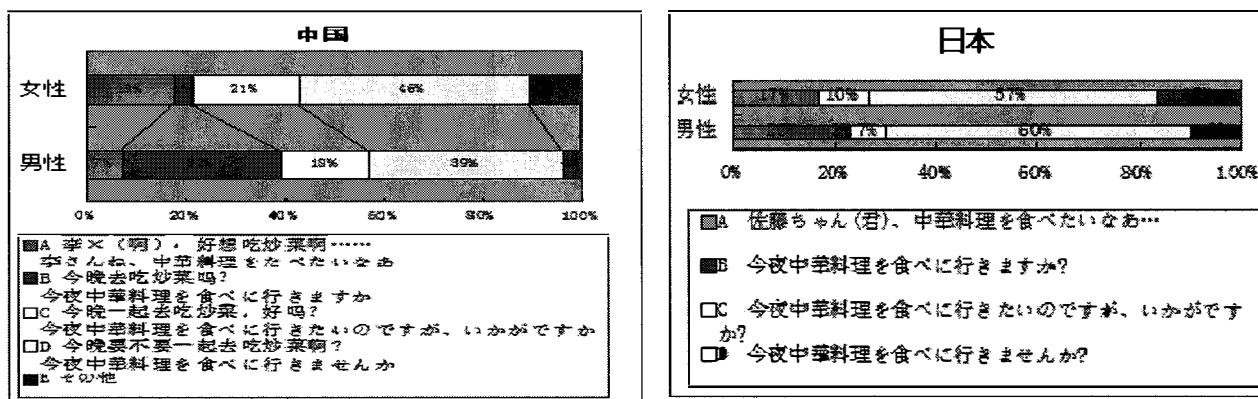
質問3は、「お詫びをする」という環境条件を設定する。中国人向けのアンケートの結果から見ると、中国人の女性は「男性がより直接的に」と「女性がより直接的に」の選択率がそれぞれ43%・39%で、男性は「男性がより直接的に」と「女性がより直接的に」の選択率がそれぞれ64%・29%であった。つまり、お詫びをする時、女性も男性も「男性がより直接的な話し言葉を使用する」と考えている。

日本人の方の結果から見ると、女性は「男性がより直接的に」・「女性がより直接的に」・「男性も女性も同じように直接的に」の選択率がそれぞれ23%・27%・37%で、男性は「男性がより直接的に」・「女性がより直接的に」・「男性も女性も同じように直接的に」の選択率がそれぞれ27%・17%・47%であった。つまり、性差なしの「同じように直接的に」の選択肢からみると、女性の人数は男性より少ない。一方、性差ありのA、Bの選択肢からみると、男女で逆の意識を持っているということがわかるであろう。

4.2 場面による男性と女性の言葉使いの特徴についての調査

質問4～8は場面によって、男性と女性はポライトネス段階に応じて、どのような言葉を使用するかを検討する。質問4-5までは、選択肢A~Eの設定は、ポライトネス理論に基づいて、それぞれ「ほのめかし」「直言」「ネガティブ・ポライトネス」「ポジティブ・ポライトネス」「その他」とした。また、質問6-8までの選択肢A~Eの設定は、「直言」「ポジティブ・ポライトネス」「ネガティブ・ポライトネス」「ほのめかし」「その他」のようにした。ただし、このポライトネス段階は日本語における設定であるため、中国語にもこのような段階があるかどうかはまだわからない。そのため、日本語と中国語の対照研究をするために、ここでは、日本語のポライトネス段階に従って、中国語の選択肢を設定した。

質問4 同性の親友を誘う場面で、男性と女性はポライトネス段階に従って、どのような言葉遣いをするか



質問4は同性の親友を誘う場面で、男性と女性はポライトネス段階に応じて、どのような言葉を使用するかを検討する。

中国人向けのアンケート結果から見ると、女性は同性の親友を誘う時、19%の人が「はっきり言わない言葉使い」、つまり、「ほのめかし」というポライトネス・ストラテジーをとる。21%の人はネガティブ・ポライトネスをとる。また、46%の人はポジティブ・ポライトネスをとる。男性の方を見ると、32%の人は直言で、18%の人はネガティブ・ポライトネス、39%の人はポジティブ・ポライトネスであった。

ここで注意すべきなのは、Eの選択肢である。女性のうちの3人がEの選択肢を選んだ。しかし、追加した内容をみると、二人は「我们晚上出去吃吧，你想吃什么?」「晚上我们，一起去吃饭。」であり、集団意識を表すとともに、相手を誘うポジティブ・ポライトネスの範囲であって、一人は「晚上有时间没，一起去吃饭?」であり、相手の都合を確認しながら、相手の気持ちを配慮するネガティブ・ポライトネスの段階であると思われる。また、男性の方では、一人はEを選んだ。しかし、内容「走，晚上出去吃饭去!」をみると、はっきり意思を伝えるために、直言の段階であると思われる。

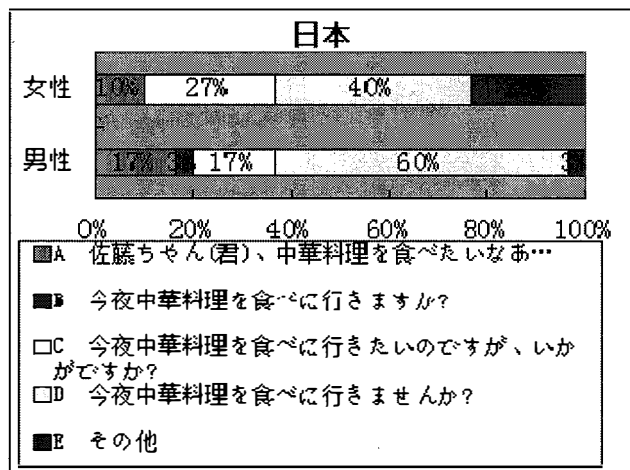
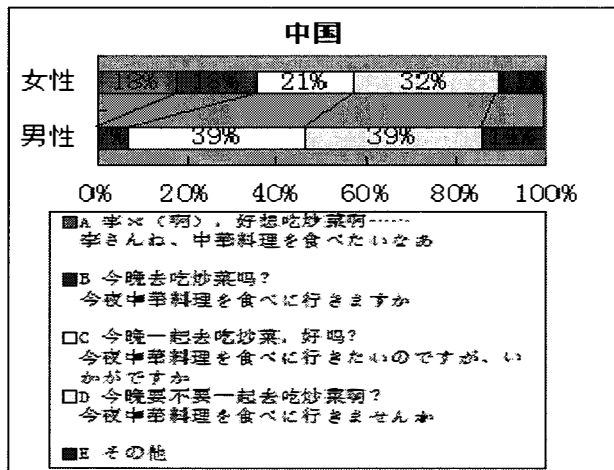
つまり、男性は、同性の親友を誘う時、「直接的な話言葉」から「相手との距離を感じないようなポジティブ・ポライトネス」までの間のポライトネス・ストラテジーをする傾向がある。女性は「相手に認められたいポジティブ・ポライトネス」から、「ネガティブ・ポライトネス」、「ほのめかし」までのポライトネス・ストラテジーをする傾向がある。

日本人向けのアンケート結果から見ると、日本人の女性は同性の親友を誘う時、17%の人が「はっきり言わない言葉使い」、つまり、「ほのめかし」というポライトネス・ストラテジーをとる。10%の人はネガティブ・ポライトネスをとる。また、57%の人はポジティブ・ポライトネスをとる。男性の方を見ると、20%の人はほのめかしで、7%の人はネガティブ・ポライトネス、60%の人はポジティブ・ポライトネスであった。こちらのEの選択肢をみると、女性のうちの4人がEの選択肢を選んだ。しかし、追加した内容をみると、1人は「ご飯食べに行こう」であり、直言の段階である。1人は「中華料理食べに行かない?」であり、相手を誘うポジティブ・ポライトネスの範囲であって、あとの2人は「夜空いてる? 中華料理食べに行かない?」「今日、中華料理食べたいんだけどさ…一緒にどう?」であり、相手の都合を確認しながら、相手の気持ちを配慮するネガティブ・ポライトネスの段階であると思われる。また、男性の方では、3人はEを選んだ。しかし、内容「おう、食べ行かね?」をみると、はっきり意思を伝えるために、直言の段階であると思われる。内容「今夜中華料理を食べに行かない?」をみると、相手の意思を積極的に求めているので、ポジティブ・ポライトネスの段階であろう。

つまり、男性も女性も、同性の親友を誘う時、「相手との距離を感じないようなポジティブ・ポライトネス」をする傾向がある。

また、中国人であろうと、日本人であろうと、同性の親友を誘うとき、ポジティブ的な話方をする傾向がある。ただし、日本人の男性より、中国人の男性がよく直接的な話方をするであろう。

質問5 異性の親友を誘う際の、男性と女性の言葉遣いの配慮の程度



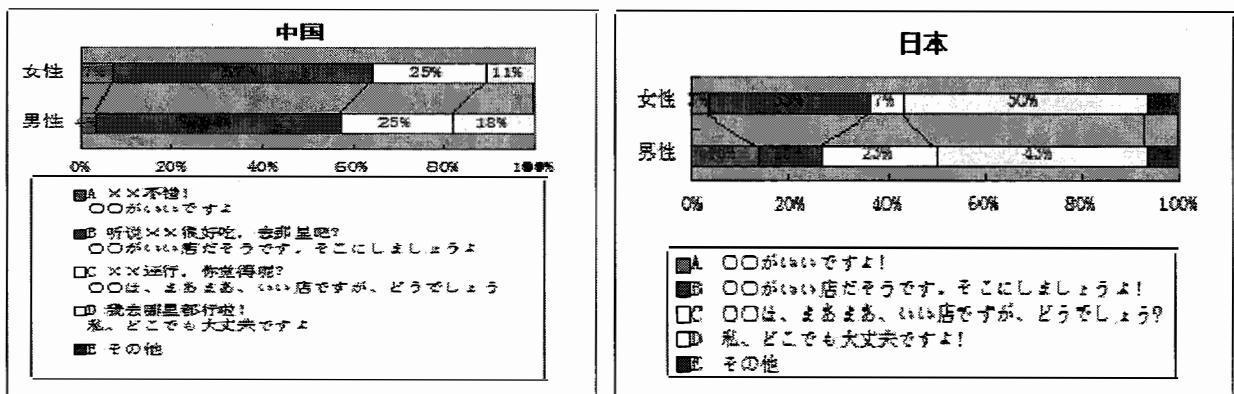
質問5は、異性の親友を誘う時の、男性と女性の言葉使いのポライトネス・ストラテジーの違いを明らかにすることを目的としている。

中国人向けのアンケート結果からみると、この問題については、質問4と比べて、女性の言葉使いの違いは大きくない。女性の32%は「ポジティブ・ポライトネス」、約21%は「ネガティブ・ポライトネス」、約15%は「ほのめかし」と「直言」の段階だった。しかし、Eを選んだ3人のうち、2人は「ネガティブ・ポライトネス」の段階だった。男性の方を見ると、39%は「ネガティブ・ポライトネス」と「ポジティブ・ポライトネス」の段階だった。Eを選んだ4人の中で、2人は「ポジティブ・ポライトネス」で、一人は「直言」の段階だった。つまり、「異性の友達を誘う」とき、中国人の男性も女性も、言葉使いをきちんと配慮し、「相手に認められやすい言葉」や、「相手に迷惑をかけないような言葉使い」を使用するという傾向がはっきりと示されている。

一方、日本人向けのアンケート結果からみると、日本人の女性の40%は「ポジティブ・ポライトネス」、約27%は「ネガティブ・ポライトネス」、約10%は「ほのめかし」の段階だった。しかし、Eを選んだ6人のうち、1人は「ほのめかし」の段階で、1人は「ネガティブ・ポライトネス」、1人は「直言」、2人は「ポジティブ・ポライトネス」の段階だった。男性の方を見ると、17%は「ネガティブ・ポライトネス」と「ほのめかし」の段階だった。60%は「ポジティブ・ポライトネス」の段階だった。Eを選んだ1人は、「ポジティブ・ポライトネス」の段階だった。つまり、「異性の友達を誘う」とき、男性より、女性の方が言葉使いをきちんと配慮し、「相手に認められやすい言葉」や、「相手に迷惑をかけないような言葉使い」を使用するという傾向があるであろう。

女性の方を比較してみると、異性の親友を誘う時、中国人女性は日本人よりもっと直接的な話方をする。日本人の女性はよりポジティブ的な話方をするのであろう。また、男性の方をみると、中国人の男性は日本人よりネガティブ・ポライトネス段階の話方をすることに対して、日本人はもっとポジティブ・ポライトネス段階の話方をすることがわかるであろう。

質問6 外食する場所を決める際に、親友にどのような言葉遣いを使うか



質問6は、外食する場所を決めるとき、親友にどのような言葉遣いを使うかという問題である。そして、質問6-8までは、選択肢Aは「直言」、Bは「ポジティブ・ポライトネス」、Cは「ネガティブ・ポライトネス」、Dは「ほのめかし」、Eは「その他」という順で設定した。

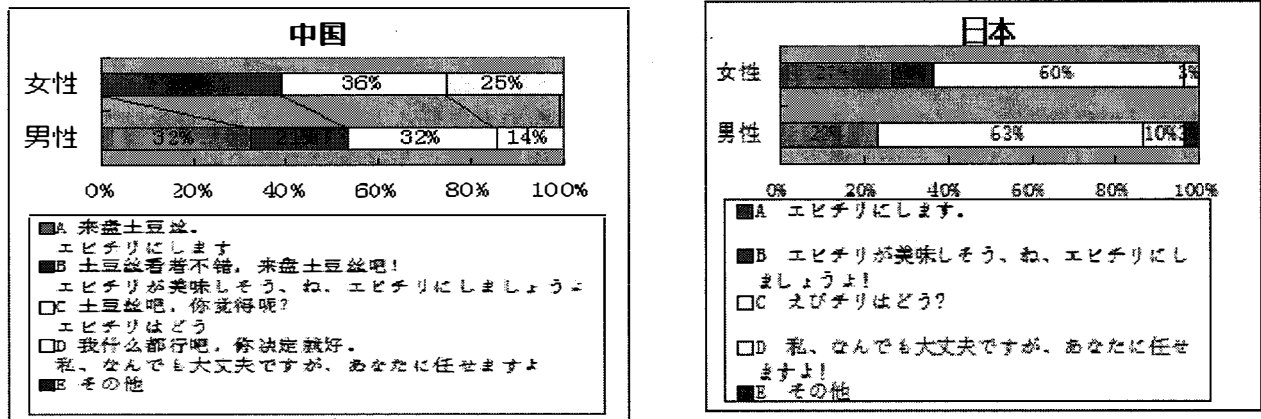
中国人向けのアンケート結果から見ると、54%の男性、57%の女性は「ポジティブ・ポライトネス」の選択肢を選んだ。また、男性も女性も25%の人が「ネガティブ・ポライトネス」の段階だった。「直言」の段階は、男性は18%、女性は11%の選択率だった。つまり、場所を決める時、自分が好む店をあげて、その上で相手にも選択の余地を与えている。男女ともに自分の意思を相手に押し付けけないような言葉遣いを好む傾向である。

一方、日本人向けのアンケート結果から見ると、33%の男性、13%の女性は「ポジティブ・ポライトネス」の選択肢を選んだ。また、23%の男性、7%の女性は「ネガティブ・ポライトネス」の段階だっ

た。「ほのめかし」の段階は、男性は43%、女性は50%の選択率だった。また、Eの選択肢をみると、女性の2人のうち、1人は「〇〇がいいな！」で、「ほのめかし」の段階である。もう1人は「〇〇って店、行ってみない？」「ポジティブ・ポライトネス」の段階である。また、男性の方をみると、2人はそれぞれ、「〇〇にすっぺ！」「〇〇にすっか」であり、両方も「直言」の段階である。つまり、場所を決める時、男性も女性も、多くの人は自分の意見を言わず、ほのめかしのポライトネス段階であろう。ただし、一部の女性はポジティブ・ポライトネスの段階の話方をする。

両国男女の調査結果を比較してみれば、日本人の女性も男性もよりネガティブな話方をするのに対して、中国人の女性も男性もよりポジティブな話方をする傾向がある。

質問7 注文する際に、男性と女性はどのような言葉遣いをするか

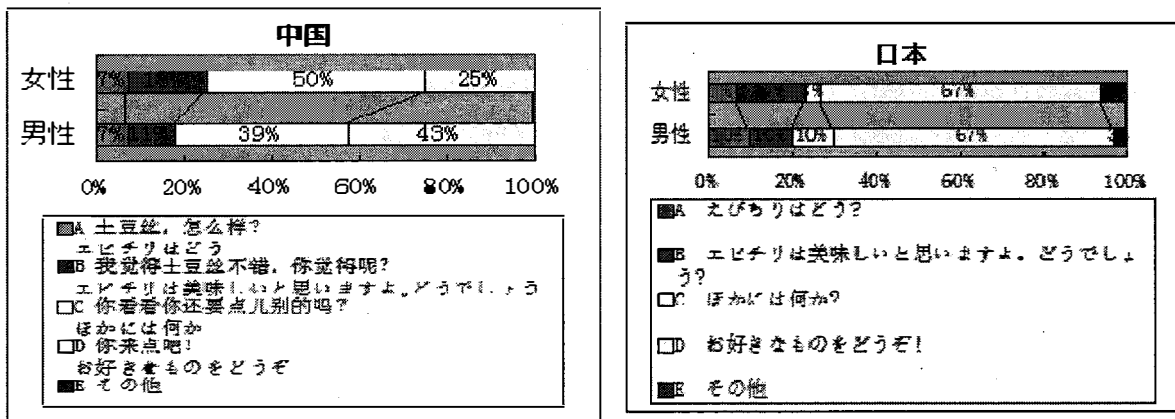


質問7は、注文するときの設定である。図7の中国人向けのアンケート結果からみると、女性の方は、39%は「ポジティブ・ポライトネス」、36%は「ネガティブ・ポライトネス」、25%は「ほのめかし」である。一方で、男性はそれぞれ32%は「直言」、「ネガティブ・ポライトネス」、21%は「ポジティブ・ポライトネス」、14%は「ほのめかし」である。つまり、女性は、「相手によく認められやすい」や、「相手を楽しくさせるような言葉遣い」をする。男性は「自分の意思をはっきり言ったり」、「相手にこだわる余地を与える」ような言葉遣いをする。

日本人の結果からみると、日本人の女性の方は、10%は「ポジティブ・ポライトネス」、60%は「ネガティブ・ポライトネス」、27%は「直言」である。一方で、男性の方は、23%は「直言」、63%は「ネガティブ・ポライトネス」、10%は「ほのめかし」である。

中日両方の結果を比較してみれば、中国人は日本人よりポジティブな話方をする人数が多い。日本人の多くの人はネガティブ・ポライトネスという段階である。

質問8 初対面の人に対しての言葉遣いの配慮の程度



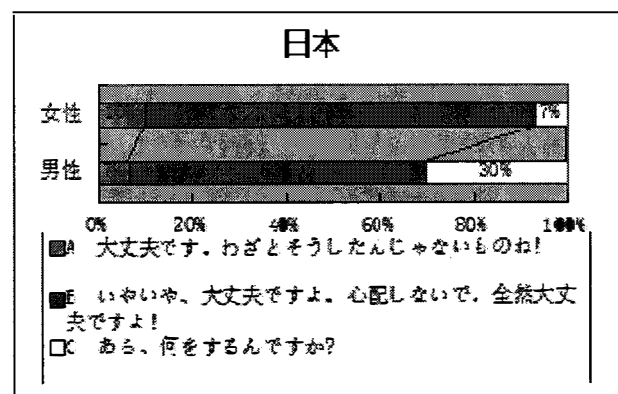
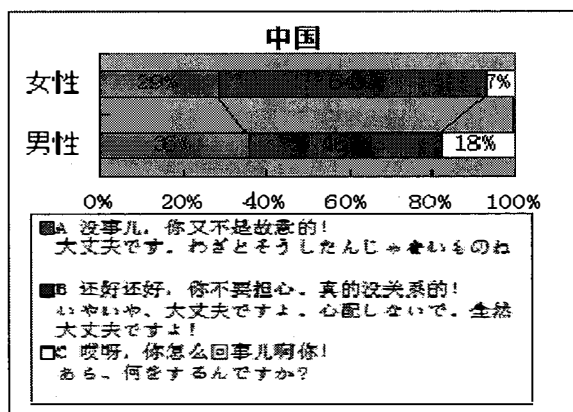
質問8は、親友が初対面の友達を連れてきたとき、その友達にどのような言葉使いをするかという設定である。

中国人のアンケート結果から見ると、女性の方は、50%は「ネガティブ・ポライトネス」、25%は「ほのめかし」のポライトネス・ストラテジーを選んだ。一方、男性の方は39%は「ネガティブ・ポライトネス」、43%は「ほのめかし」のポライトネス・ストラテジーを選んだ。つまり、はじめて会った人と会話するとき、女性も男性も、どちらも相手に「自分の意見を押し付けない」、「相手の考えも聞く」ような、「間接的な表現」をするということが明らかとなった。一方、日本人のアンケート結果見ると、女性も男性もそれぞれ、67%の人は「ほのめかし」のポライトネス・ストラテジーを選んだ。

つまり、はじめて会った人と会話するとき、中国人の女性も男性も、ポジティブな話方をして対して、日本人の女性も男性も、ほのめかし段階のポライトネスをする。中国人であっても、日本人であっても、初対面の人に対して相手のフェイスを脅かさないよう、きちんと配慮しながら話をする。

#### 4.3 中国語と日本語のポライトネスについての調査

##### 質問9 大好きなものが親友に壊されたときの自分の反応



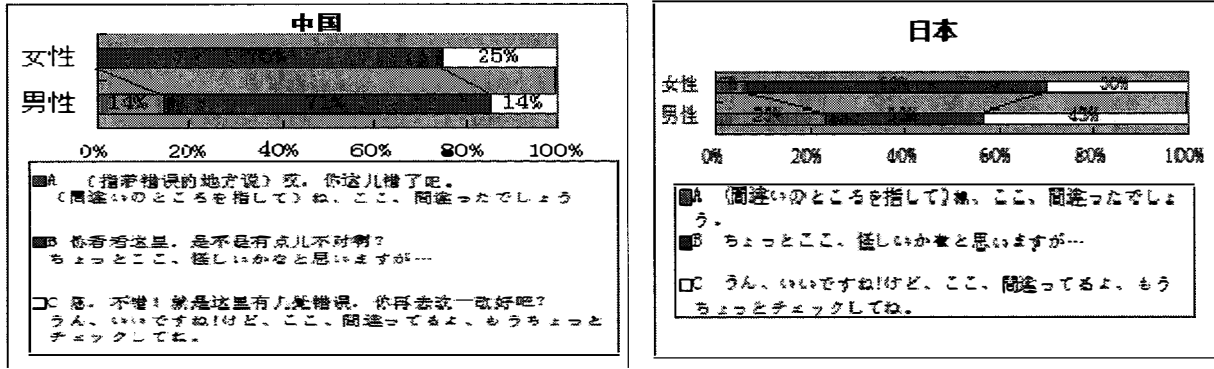
質問9は、大好きなものが親友に壊されたとき、自分はどのように反応するのかを検討するものである。選択肢の設定は、ポライトネス・ストラテジーに従って、AからCまでそれぞれ、「ポジティブ・ポライトネス」、「ネガティブ・ポライトネス」、「直言」という段階である。

中国人の結果から見ると、女性の方はそれぞれ9%、18%は「ポジティブ・ポライトネス」と「ネガティブ・ポライトネス」の段階を選んだ。男性の方は36%は「ポジティブ・ポライトネス」、46%は「ネガティブ・ポライトネス」の段階を選んだ。「直言」の段階は、答えた女性と男性の人数を比べてみると、やはり男性が多い。つまり、「ネガティブ・フェイス」を脅かさないために、男性も女性も「間接的な言葉使い」をするという結果が明らかになる。

日本人の結果から見ると、女性の方はそれぞれ10%、83%は「ポジティブ・ポライトネス」と「ネガティブ・ポライトネス」の段階を選んだ。男性の方は7%は「ポジティブ・ポライトネス」、63%は「ネガティブ・ポライトネス」の段階を選んだ。「直言」の段階は、答えた女性と男性の人数を比べてみると、やはり男性が多い。

中日両方の結果を比較してみると、中国人の女性は日本人の女性よりポジティブ・ポライトネスの段階、日本人の女性はもっとネガティブ・ポライトネスの段階である。男性の方をみると、中国人の男性は日本人の男性よりポジティブ・ポライトネスの段階、日本人の男性はネガティブ・ポライトネスの段階である。また、直言という段階を選んだ人数を比較してみると、やはり日本人男性の人数が多い。

質問 10 友達の間違ったところを、どのように指摘するか



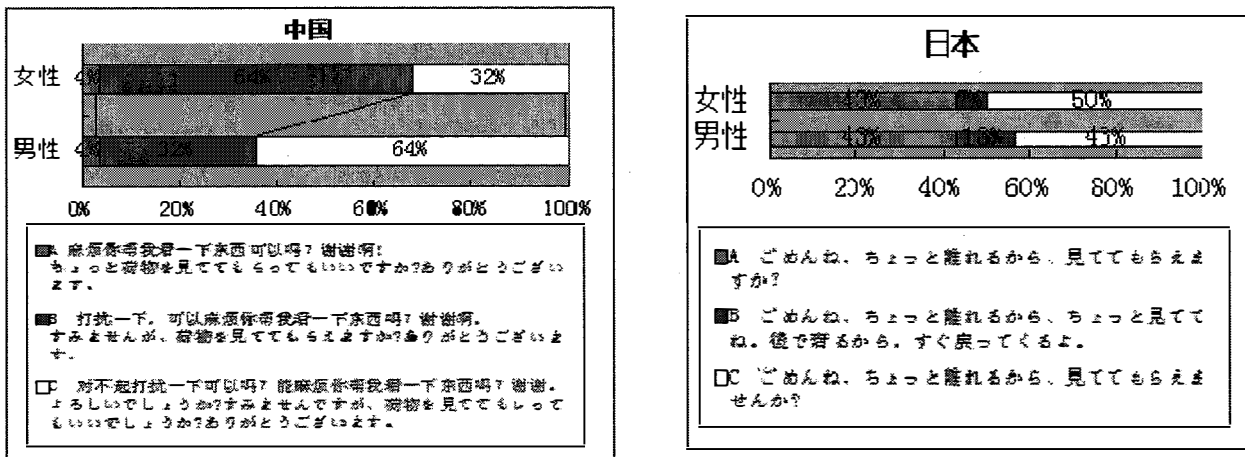
質問 10 は、ネガティブ・フェイスを脅かさないようにするために、相手の間違いをどのように指摘するかを検証する。A～Cの選択肢はそれぞれ、「直言」「ネガティブ・ポライトネス」「ポジティブ・ポライトネス」というように設定した。

中国人の結果からみると、女性の方は、75%は「ネガティブ・ポライトネス」を選択し、25%は「ポジティブ・ポライトネス」であった。男性の方は、「直言」「ネガティブ・ポライトネス」「ポジティブ・ポライトネス」の選択率はそれぞれ14%・71%・14%であった。質問9と同じように、「ネガティブ・フェイス」を保つために、男性も女性も「婉曲的な話言葉」を選ぶ。

日本人の結果からみると、女性の方は、63%は「ネガティブ・ポライトネス」を選択し、30%は「ポジティブ・ポライトネス」であった。男性の方は、「直言」「ネガティブ・ポライトネス」「ポジティブ・ポライトネス」の選択率はそれぞれ23%・33%・43%であった。つまり、女性の多くの方は「ネガティブ・ポライトネス」の段階であり、男性の多くの方は「ポジティブ・ポライトネス」の段階である。

また、日中両方の結果を比較してみれば、他人のフェイスを脅かさないように、中国人は日本人よりもっとネガティブ的な話方をする傾向がある。日本人はポジティブ・ポライトネスの段階である人が中国人より多い。

質問 11 知らない人に何か頼むときの言葉遣いの配慮の程度



質問 11 は、知らない人に何か頼むとき、言葉使いの「配慮の程度」を検証する。選択肢の設定はA～Cそれぞれ、「直言」「ポジティブ・ポライトネス」「ネガティブ・ポライトネス」である。

中国人の結果を見ると、女性の方は、「ポジティブ・ポライトネス」「ネガティブ・ポライトネス」がそれぞれ64%・32%であった。一方で、男性の方は「ポジティブ・ポライトネス」「ネガティブ・ポライトネス」が32%・64%の結果であった。注意すべき点は、Bの「ポジティブ・ポライトネス」の選択肢に、中国語の語気詞を使った点である。特にこの語気詞には「女性らしさ」という特徴がある。

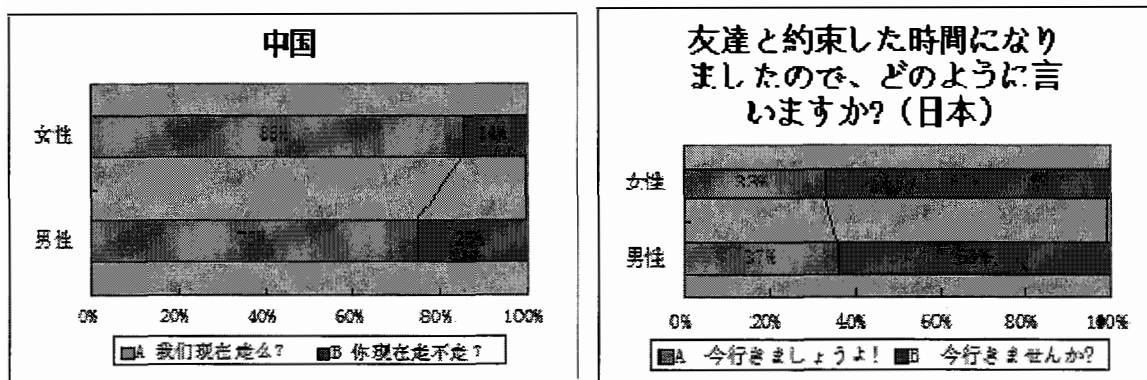
日本人の結果を見ると、女性の方は、「ポジティブ・ポライトネス」「ネガティブ・ポライトネス」がそれぞれ40%・47%であった。一方で、男性の方は「ポジティブ・ポライトネス」「ネガティブ・ポライトネス」が47%・37%の結果であった。つまり、初対面の人に声をかける際、日本人の男性も女性も自分の言葉遣いを十分注意しながら、相手に迷惑をかけないようにする傾向があるであろう。

それから、中国人と日本人の結果を比較してみると、知らない人に何か頼むときの言葉遣いは、中国人の女性はよりポジティブ・ポライトネスの段階に対して、日本人の女性はよりネガティブ・ポライトネスの段階である。また、中国人の男性はネガティブ・ポライトネスの段階の人数が多いが、日本人の男性はポジティブ・ポライトネスという段階の人数が多い。

#### 4. 4 中国語の語気詞と日本語終助詞の使用状況調査

こちらの部分は、中国語語気詞（日本語終助詞）から中国語（日本語）ポライトネス段階を検証するものである。同じ場面において、中国語語気詞と日本語終助詞に注目しながら言葉の違う文型から話方、語感などいろいろな要素によって、中国語と日本語の特徴を分析する。

##### 質問 12 語気詞「么」と終助詞「よ」

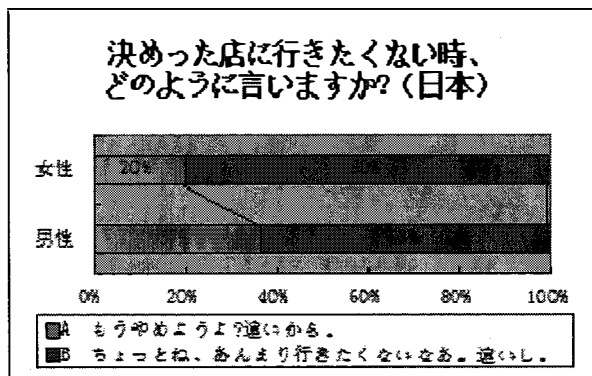
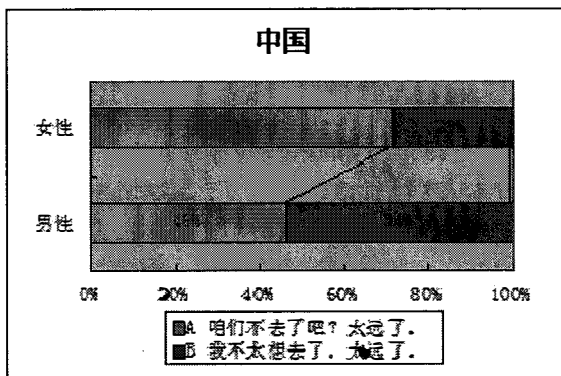


質問 12 は、せき立てる際の言葉遣いの検討である。中国語は日常会話の場で語気詞「么」を使うと、どのような感情が表れるのか、また、どのような作用が起こされるのか、質問 13 を通して、「么」の文末に使う語気詞の働きを検討する。疑問の場合、「吗」の代わりに、「么」を使っても問題ない。両者の働きは同じだが、語気の強さが違う。また、「么」は、「吗」よりもっと話言葉的になる。結果から見ると、女性の86%は「么」を使う。男性は64%は「么」を使う。また、設置した例文は「咱们……么」で、「咱们」は「私たち」の意味で、集団意識が強調される。従って、自分の意思を伝達するとき、「集団意識を表す人称代名詞+語気/疑問詞」の形は、聞き手にとって受け止めやすい言い方であろう。

この場面の日本語終助詞「よ」を使うと、どのような感情が表れるのか、また、どのような作用が起こされるのか、質問 13 を通して、「よ」の文末に使う終助詞の働きを検討する。結果から見ると、女性の33%は「よ」を使う。男性は37%は「よ」を使う。また、設定した例文 A は、「今行きましょうよ」で、相手と親しい関係を作りたいイメージを伝えるのである。こちらの「よ」は相手を勧誘などの意を言い表す。例文 B は普通の疑問文である。つまり、日本人の男性も女性も、相手に対して親しすぎるでもなく、疎遠すぎるでもなく、相手に迷惑をかけないように言葉遣いを好む傾向がある。



質問 13 語気詞「吧」と終助詞「ね」



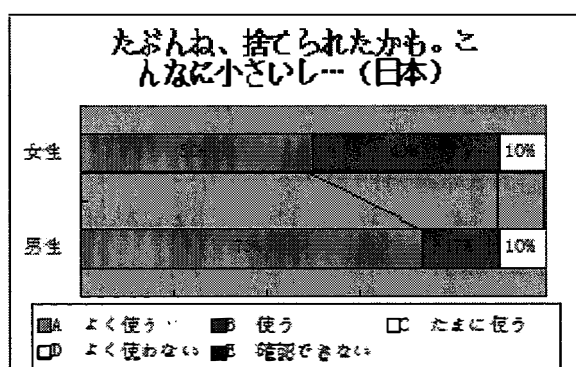
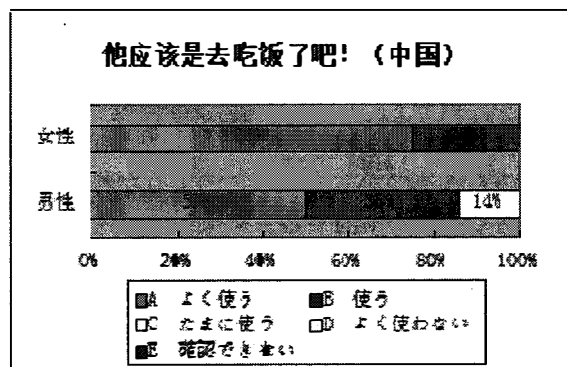
質問 13 は、自分がやりたくないことを拒否するとき、男性と女性には違いがあるかどうかの検討である。中国語の選択肢、A は「集団意識を表す人称代名詞＋語気詞/疑問詞」の形で、B は「一人称」の形である。結果から見ると、女性は 71% の人が A を選び、29% の人が B を選んだ。一方、男性は 47% の人は A を選び、53% の人は B を選んだ。つまり、やりたくないことを断る場合、「女性は男性より婉曲」であり、「自分の存在を弱める」一方、「行きたくない理由を強調」する。女性に対して、男性は「自分自身の存在を強く強調」する。

日本語の選択肢において、A は直接的な話し方で、B は間接的な話し方である。結果から見ると、女性は 20% の人が A を選び、80% の人が B を選んだ。一方、男性は 37% の人は A を選び、63% の人は B を選んだ。つまり、やりたくないことを断る場合、「男性も女性も婉曲」であり、「自分の存在を弱める」一方、「行きたくない理由を強調」する。

4. 5 ヘッジ表現についての使用調査

この部分は、中国語（日本語）のヘッジ表現についての検証である。選択肢 A～E までは、それぞれ、「よく使う」「使う」「たまに使う」「よく使わない」「確認できない」の使用率を意味するものである。

質問 14 「应该……吧/大概……吧」と「たぶんね/たしか」の検討



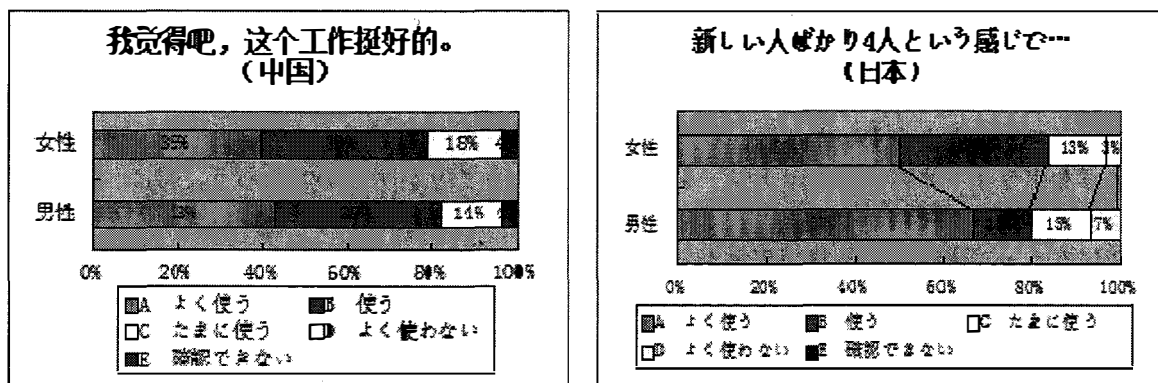
質問 14 は、「应该……吧/大概……吧」の言葉が「たぶん…だろう」の意味である。推測や語気を緩和する働きがある。中国語の質問 14 を見て、結果はすぐ分かるであろう。まず、男性も女性も、日常会話では「应该……吧/大概……吧」の表現を使うということが明らかになる。それから、女性は 75% の人はよく使い、25% の人は使う。男性の方は 50% の人がよく使い、36% の人が使い、あとの 14% の人はたまに使うという割合である。これらのことから、女性の方が男性よりこれらの表現をよく使う傾向があることが分かる。

日本語の質問 14 は、「たぶん…/たしか…」は推測や語気を緩和する働きがある。結果からみれば、男性も女性も、日常会話では「たぶん…/たしか…」の表現を使うということが明らかになる。女性は



50%の人はよく使い、40%の人は使う。男性の方は73%の人がよく使い、17%の人が使う、あとの10%の人はたまに使うという割合である。「よく使う」の選択率からみると、この表現は女性より男性の方がよく使うということが分かるであろう。

### 質問 15 「感じ」



質問 15 は「我觉得吧……」とは「…と感じる」、あるいは「…と思う」という意味である。自分の観点などを発表するとき、強い語気や硬い感情を弱めたり、緩和したりして相手のメンツを脅かさないようにする配慮表現だろう。

結果から見ると、この表現は男性もよく使うし、女性もよく使う。しかし、詳しく比べると、男性の使用率は43%は「よく使う」、39%は「使う」、14%は「たまに使う」という結果で、女性の方は39%は「よく使う」、39%は「使う」、およそ18%は使わない」という答えであった。つまり、この表現を使わない人数は男女ほぼ同じである。

以前女性の使用頻度が高いと考えられたが、実際の結果から見ると、この頃、男性の使う頻度が高くなったのであろう。これも現在の社会言語環境の大きい変化ではないかと思う。

また、日本語の例文 20 のように、「新しい人ばかり 4 人」ということは事実として確かなことのものであるのにも関わらず、「4 人という感じで」と、発話内容をぼかして、和らげていると判断される。

結果から見ると、女性の方は、50%はよく使う、33%は使うというようになっている。男性の方は、67%はよく使う、13%は使うという結果である。つまり、この表現は女性より男性の方がよく使う傾向になるだろう。

## 第五章 まとめ

中国語（日本語）の女性言葉と女性言葉のポライトネスに対する実際的な言語意識を明らかにするために、このアンケート調査をした。調査結果から見ると、以下の点が分かった。

①中国語には、男性と女性を区別するための言語システムがないと言われているが、実際の調査結果を見ると、中国人が日常会話の中で中国語についての男女差意識を持っているということが確認できた。

また、大学生の言語意識を詳しく分析するために、場面と感情の違いにより、どのような言葉遣いを使用するのかを条件に設定した。感謝の気持ちとお詫びをするときの気持ちを表すために、女性と男性の言葉使いの配慮の程度を確認した。結果から見れば、感謝の場合においても、お詫びの場合においても、やはり男性より女性の方が婉曲的な言葉を使用する傾向があることが分かる。日本語では、男性が使う表現と女性が使う表現があり、かなり体系的な区別がなされる。実際の調査結果を見ると、日本人が日常会話の中で日本語についての男女差意識を持っているということが確認できた。また、感謝の場合は女性の方は男性より直接的な話し言葉をする。お詫びの場合においては、やはり男性も女性も直接的な言葉を使用する傾向があることが分かる。

②質問 4-8 までのアンケート結果から見ると、女性はよくポジティブ・ポライトネスを好む傾向がある。

聞き手の性別による言葉使いの違いもなく、聞き手との親疎距離もあまり関わらないであろう。それ

から、中国人の女性はネガティブ・ポライトネスを使用する頻度も高いであろう。日本人女性は聞き手の性別による言葉使いの違いがそのように大きくない。

③中国人の女性は会話の中で「自分のフェイス」「相手のフェイス」という認識がある。

また、「ポジティブ・フェイス」と「ネガティブ・フェイス」を脅かさないために、中国人の女性は、「フェイス」の種類によって、ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネス両者を使用することが明らかであろう。特に、「ポジティブ・ポライトネス」を使用するとき、中国語の語気詞をよく使う傾向があるということが分かる。日本人の女性は一般の人と話す際、「ポジティブ・フェイス」を保つために「直言」や「ネガティブ・ポライトネス」という段階の言葉遣いをする。また、「ネガティブ・フェイス」を脅かさないために、日本人の女性は、「ポジティブ・ポライトネス」と「ほのめかし」のようなポライトネス・ストラテジーを使用することが明らかであろう。特に、「ポジティブ・ポライトネス」を使用するとき、日本語の終助詞をよく使う傾向があるということが分かる。

④中国語にもヘッジ表現という言語現象があるということも分かった。

現在、中国には、中国語のヘッジ表現に対する詳しい分析資料や調査結果がないが、今回の調査結果から見ると、女性がよく使用するヘッジ表現があるし、男性がよく使用するヘッジ表現もある。日常会話の中では、女性はヘッジ表現をよく使うが、ただし、以前女性が使っていた表現は男性も愛用する傾向が明らかになった。また、日本語にはヘッジ表現については、今回の調査結果から見ると、女性がよく使用するヘッジ表現があるし、男性がよく使用するヘッジ表現もある。また、日本語のヘッジ表現については「性差が見られる」項目は、女性より男性が「よく使う」という傾向にあるものが多い。すなわち、日本語では、ヘッジは日本人の男性が愛用するということであろう。

## V 参考文献

- 池上嘉彦 (1989) 「日本語のテキストとコミュニケーション」 『日本文法事典』 大修館書店  
宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス —ポライトネスの談話理論構想」 『談話のポライトネス』 国立国語研究所  
北原保雄 (1995) 「概説日本語」 朝倉書店  
金田一京助 (1995) 「日本の敬語」 書川書店  
佐竹久仁子 (2003) 「テレビアニメの流布する『女ことば/男ことば』規範」 『ことば』  
中村 桃子 (2001) 「ことばとジェンダー」 勁草書房  
中村 桃子 (2007) 『「女ことば」はつくられる』 ひつじ書房  
北京大学中国語学系現代漢語教研室編 松岡榮志、古川裕監訳 「現代中国語総説」 (2004) 三省堂  
益岡隆志 田窪行則 (2000) 「基礎日本語文法一改訂版一」 くろしお出版  
曹大峰 (2000) 「認識モダリティの日中対照例 —「だろう」と「吧(ba)」—」 国立国語研究所  
陳一吟 (2013) 「日本語におけるジェンダー表現—大学生の使用実態および意識を中心に—」 花書院  
儲誠志 (2000) 「語気詞の意味分析」 『中国言語学情報1 語気詞と語気』 好文出版  
彭飛 (2004) 「日本語の「配慮表現」に関する研究—中国語との比較研究における諸問題—」 和泉書院  
劉宗和 (1999) 「日語與日本文化」 湖南教育出版社  
李東哲 (1998) 「日語會話中的男性用語和女性用語」 『日語學習』  
翟東娜 (2006) 「日語語言學」 高等教育出版社  
孫汝建 (2010) 「漢語的性別歧視與性別差異」 華東科技大學出版社  
王萌 (2013) 「日本人と中国人の不同意表明——ポライトネスの観点から—」 花書院  
王力 (1985) 「中国現代語法」 商務印書館  
『現代中国語大辞典』編委会 (2010) 「現代中国語大辞典」 上海辞書出版社

- 张秀 (2000) 「中国語動詞の「語気」体系」 『中国語言語学情報 1 語気詞と語気』 好文出版
- 赵元任 (2010) 「汉语口语语法」 商务印书馆
- 朱德熙 (1982) 「语法讲义」 商务印书馆
- Lakoff R. T. (1975) *Language and Woman's Place*. New York, Harper&Row.
- Penelope Brown and Stephen C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*.  
Cambridge: Cambridge University Press. ペネロピ・ブラウン、スティーブン・C・レヴィンソン  
『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』 田中典子監訳、研究社、2011